

1-D1-4 妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同  
研究（中間報告）

三重大学産科婦人科

日下 秀人, 杉山 隆, 前川 有香, 豊田 長康

【目的】妊娠糖尿病は厳格な管理による血糖正常化により、その多くを防止することが可能であり、早期発見・早期治療の効果は非常に大きい。現在、全国規模で症例数を集積しており、今後各スクリーニングの感度・特異度を算出し、今後我が国で実施すべき妊娠糖尿病のスクリーニング法を決定する予定である。  
【方法】既に糖尿病と診断されている患者などは除外し、同意の得られた妊婦に、妊娠初期と中期に各スクリーニング検査および75gOGTTを施行した。【成績】対象となった妊婦2286人中、GDMは71例（3.1%）であった。71例のGDMのうち、妊娠初期に診断された症例は1100例中38例（3.45%）であった。【結論】妊娠初期にGDMの70%が発見された。スクリーニング法としては、現在のところ妊娠初期では随時血糖とGCTが、中期ではGCTが優れている。